

当館企画展

## 加賀前田家 百万石の名宝 一尊經閣文庫の名品を中心に一

国宝 日本書紀 巻第11(巻頭) 前田育徳会蔵

(巻末)

■ 大名の装い 一武具・甲冑・陣羽織一

■ 優品選 一加賀文化の粋一

■ 春の優品選 石川ゆかりの作家たち[絵画・彫刻]

■ 春の優品選 [工芸]

- 百万石の文化講座
- 土曜講座のご案内
- 5月の映像ギャラリー
- 「国際博物館の日」について
- 早朝開館のお知らせ
- 新幹線で行ける注目の展覧会
- 5月の行事予定
- アラカルト ただ今展示中

加賀前田家

# 百万石の名宝 — 尊經閣文庫の名品を中心に —

4月24日(金)～6月7日(日) 会期中無休

北陸新幹線が開業して一か月が経ち、北陸が大きくクローズアップされています。しかし、それが上滑りの一過性のものとならないために、石川のアイデンティティともいえるべき伝統に育まれた魅力ある文化を、来県される方々のみならず、県民の皆様にもより一層の興味と理解がいただけるように情報発信していくことが、美術館の重要な使命と思われれます。このたび開催する「加賀前田家 百万石の名宝 — 尊經閣文庫の名品を中心に —」は、この地の文化の根幹を紹介するものであり、この時期に最もふさわしい展覧会と言えますでしょう。また、こうした時期でなければおおよそ不可能ともいえるべき展覧会であり、このたびは公益財団法人前田育徳会の並々ならぬご協力により、国宝十五件、重要文化財三十五件を含む大変貴重な作品一二〇件を公開する展覧会を実現することができました。展示構成は、第一章「武家の象徴 — 武器・刀剣・甲冑 —」と第二章「加賀文化の確立」で、第二章では、(1) 加賀藩の美術工芸・(2) 尊經閣文庫の名品・(3) 百工比照の全貌という内容で紹介します。この特別な機会に、皆様お誘いあわせの上、真の加賀文化をご堪能ください。なお、文化財保存の観点から、会期中に展示替えを行います。

## 「関連イベント」

### ◆講演会(聴講無料)

「前田育徳会の過去・現在・未来」

講師：(公財)前田育徳会理事長 石田寛人氏

日時：五月二日(土) 午後一時三〇分

◆ラ・フォル・ジュルネ金沢協賛  
コンサート&レクチャー(聴講無料・先着順)  
「尊經閣文庫と財団の創設」

講師：前田家第十八代当主/ラ・フォル・ジュルネ

金沢音楽祭実行委員会会長 前田利祐氏

※講演に先立ち音楽アンサンブル、ヌオーヴォ・アス・ペット・ブレイメンの演奏。

日時：五月四日(月・祝) 午後一時三〇分

### ◆百万石の文化講座 第一講(聴講無料)

「前田綱紀について」

講師：嶋崎丞 当館館長

日時：五月三〇日(土) 午後一時三〇分

### ◆土曜講座(聴講無料) 各日午後一時三〇分

四月二十五日(土)

「前田利常の文化政策と古九谷」

講師：村瀬博春(当館学芸第一課担当課長)

五月九日(土)

「前田利常と小堀遠州」

講師：高嶋清栄(当館学芸第一課長)

五月十六日(土)

「前田綱紀の文化政策と久隅守景」

講師：村瀬博春(当館学芸第一課担当課長)

五月二十三日(土)

「前田綱紀と百工比照」

講師：高嶋清栄(当館学芸第一課長)

以上、会場は石川県立美術館ホール

### ◆ギャラリートーク(展覧会観覧料が必要です)

会期中の毎週日曜日(最終日六月七日を除く)

午前十一時から当館学芸員が行います。

(四月二十六日、五月三、一〇、十七、二十四、三十一日)

# 大名の装い

— 武具・甲冑・陣羽織 —

4月19日(日)～6月7日(日) 会期中無休

主催／石川県立美術館  
 共催／NHK金沢放送局、NHKプラネット中部  
 特別協力／北國新聞社  
 学術協力／公益財団法人前田育徳会  
 制作協力／NHKプロモーション

歴代藩主が使用した甲冑・陣羽織を展示します。企画展示室で「加賀前田家 百万石の名宝」を開催しており、初代利家から五代綱紀までのものを紹介しています。そこで本展では六代吉徳以降の藩主が使用した甲冑・陣羽織をご覧ください。

戦いの中で、機敏に動くためにより軽い甲冑が求められ、攻撃する武器が多様化、強力化したことにとまない、防具である甲冑の変化も促されて、より頑丈なものが求められました。こうした背景から、従来の甲冑の様々な要素を組み合わせて、総合的に構成し生まれたのが当世具足です。「当世」とは今の世、「具足」とは、装具がすべて備わっていることをあらわし、防護機能が完備した当世風の鎧

という意味で名付けられました。陣羽織は合戦の時、具足の上に着用した外被のことです。室町時代中頃より用いられ、具足羽織や陣羽織などと呼ばれました。当初は普通の羽織を着用していましたが、次第に威厳を示すため人目を引く羽織が作られるようになりました。寒さや雨露から身を守り、動き易く、存在を誇示し威厳を示すために、当時日本に舶載されたラシャやビロードなどの新しい素材を使用して、自由な意匠による陣羽織が作られました。江戸時代には実用的なものから儀礼的な服装に変化して装飾的要素が強くなり、前田家歴代藩主の陣羽織も、華やかな色彩、大胆で奇抜な意匠のものが多くなりました。

黒塗村梨子地桜寿帯鳥文 時絵錦

## 学芸員の眼

北陸新幹線の開業により、首都圏から金沢を訪れる人は格段に増加しました。しかし、そのことが文化施設の集客増に直結するわけではありません。限られた滞在時間の中で「百万石の名宝」を鑑賞していただくためには、様々な魅力を発信して展覧会の存在をアピールする必要があります。展覧会については、かつてない規模で前田家が収集・育成した書籍・典籍類や美術工芸品、名物刀剣が一堂に展示されるという、まさに半世紀に一度の内容となっています。関連イベントとしては、講演会・講座に加えて、ラ・フォル・ジュルネ金沢協賛のコンサート&レクチャーを開催し、音楽祭参加者に加賀文化の神髄を堪能していただきたいと思います。どうぞご期待ください。

有栖川錦(雲龍文) 前田育徳会蔵

### ◆観覧料

	個人	
一般	1,000円	団体(20名以上) 800円
大学生	600円	500円
高中小生	300円	200円

※当館友の会会員は、受付での会員証提示により団体料金に割引されます。

## 第3・4・6展示室

# 春の優品選

石川ゆかりの作家たち  
〔絵画・彫刻〕

4月19日(日)～6月7日(日) 会期中無休

当館の近現代作品の収集は、地域文化の集積を目指し、石川県の歴史、美術工芸の伝統をふまえた石川県の地域文化に関係ある作品を中心にを行っています。したがって、他県の美術館で見られるように、国外作家や明治以降の著名な日本人作家の作品を主体に、地元作家を加味して展示室を構成するということはありません。美術ファンの方々であればまず知っている作家の名が見られず、石川ゆかりの作家の大作がずらりと並んでいることに驚かれるかもしれません。しかし、各地の美術館が同じ様な作家を並べる必然性はなく、旅先ではその地の作家を知り、作品を味わっていたら、全国に数多くの美術館がある意義と意味があるのではないのでしょうか。

北陸新幹線が開業し、ゴールデンウィークを交えたこの期間中は多くの方々から石川を訪れることでしょう。今回の特集は、まさに県外の方々に、石川ゆかりの作家と作品を知ってほしいという思いで開催するものです。

第三展示室では主に鴨居玲「蜘蛛の糸」、宮本三郎「裸女達に捧ぐ」、高光一也「カサブランカ」などの油絵、第四展示室では吉田三郎「山羊を飼う老人」、松田尚之「人魚」、畝村直久「和」などの彫刻を、そして第六展示室では西山英雄「火焰山」、石川義「経堂への道」、畠山錦成「鶴」などの日本画を展示します。さらに、油絵では白山市立松任中川一政記念美術館所蔵の中川一政「向日葵ピカソ壺」と「駒ヶ岳」を特別展示します。



石川義「経堂への道」



高光一也「カサブランカ」



松田尚之「人魚」

## 第2展示室

# 優品選

—加賀文化の粋—

4月19日(日)～6月7日(日) 会期中無休

本年度展覧会スケジュールには「優品選」とのみ紹介してありますが、今回の展示は企画展「加賀前田家 百万石の名宝」の関連展示として、加賀文化の粋をご紹介します。まず絵画では、久隅守景の重文「四季耕作図」に改めて注目したいと思います。本作は、伝統的な山水図と耕作図を融合し、景物画としての要素も加味した力作ですが、学問を奨励した加賀藩五代藩主・前田綱紀による文化政策から生まれたという見方もできます。一見平易な表現の中に、実に深遠な思想がこめられており、加賀藩主が芸術家に何を求めたのかを知る貴重な事例となっています。

また今回は当初前田家に伝来し、その後流出し

た「天狗草紙」と「古今和歌集・清輔本」(ともに重文)も合わせて展示します。企画展と合わせて前田家の審美眼を再認識する好例といえるでしょう。また、前田家の工芸育成の成果として、初代大樋長左衛門の県文「鉛釉烏香炉」ほかや、前田家がバックアップした野々村仁清の重文「色絵梅花図平水指」も展示します。名工を招聘するとともに、仁清のように京都に本拠を置く芸術家の作風に影響を与えるなど、三代藩主利常から五代綱紀に至る加賀藩の存在は、江戸時代初期の文化を語る上で無視することはできません。このような文化土壌から、明治時代以降も広く加賀の地に名品が集積され、また名工が次々と誕生しました。



重文 久隅守景「四季耕作図」左隻



平成27年度

# 開講 百万石の文化講座

ご存知の通り、当館二階コレクション展示室「前田育徳会尊經閣文庫分館」では、百万石大名前田家伝来の国宝・重要文化財をはじめとする文化財を公開しています。県民の皆様にも前田育徳会や尊經閣文庫を広く知って頂くために、二〇〇九年に開講した百万石の文化講座。開講以来、年三〜四回実施しており、毎回多くの方に聴講頂いています。前田家の歴史や文化財について「毎回多彩な顔ぶれの研究者から興味深いお話を聴くことができる」

と大変ご好評を頂いています。本年度は二十八年一月までに四講を開催する予定をしており、第一講は企画展「百万石の名宝」に関連し五月三十日の土曜日に開催いたします。当館鳴崎館長の講師で「前田綱紀について」と題しての講座になります。事前の申込や聴講料は不要です。で、当日当館ホールに直接お越しください。多くの方のご来場をお待ちしております。

## 第5展示室

# 春の優品選 [工芸]

4月19日(日)~6月7日(日) 会期中無休

工芸作品の意匠表現は、抽象的・幾何学的なものから、動物、人物、自然現象に関する具象的なものなどさまざまですが、中でも植物は、人々の暮らしの中で目を楽しませ心を癒す格好のモチーフとして取り上げられてきました。

今回、近現代工芸部門のコレクション展で展示する作品の中には、やはり草花を主題とした作品が多く見受けられます。その中で、四月から六月にかけて春の季節を中心に開花する草花を意匠とした陶芸作品を紹介してみましよう。

### ① 中憲一作《爛漫》平成十五年

春の花の代名詞といえるサクラ。その満開の花を、白地の上に細かく描いています。花びらは、ピンクで淡くほかし、花心の部分や空間に舞う花びらに、金をほどこして、柔らかな春の日差しを感ぜさせます。



(部分)

② 中村研一作《カーネーション図皿》昭和二十九年  
母の日の贈呈用として知られるカーネーションを九谷五彩(赤・黄・緑・紺青・紫)で、華麗に彩っています。作者は、初代徳田八十吉の窯で絵付けを行い、本業である油彩画を思わせる生き生きとした絵画的表現に腕をふるいました。

### ③ 板谷波山作《葆光彩磁チューリップ文花瓶》大正六年頃

わが国の近代陶芸界の巨匠である作者は、明治二十九年石川県工業学校に赴任したことがきっかけで陶芸の道に進むことになりました。本作には、波山独特の「葆光彩磁」と呼ばれるマットな輝きを呈する釉薬に包まれた、モダンな姿のチューリップが表現されています。

### ④ 石黒宗磨作《白地黒絵あじさい文壺》昭和二十五年頃

作者は、昭和三十年「鉄釉陶器」の重要無形文化財保持者に認定されています。本作は、白地に鉄釉をかけ、それが乾かないうちに線描であじさいの花を線刻しています。ラフなタッチが素朴な味わいをも出し、心地よいリズム感を感じさせます。



# 土曜講座のご案内

平成二十七年年度の土曜講座は、四月二十五日にスタートし、計三十回を予定しています。土曜講座の今年の共通テーマは、今年の当館展示方針である「館蔵優品を中心にし、その魅力を発信する」に沿い、「本館コレクションの作品・作家の紹介」を年度後半に連続して行います。また自由テーマは例年どおりで、各学芸員の自由テーマと、担当する企画・特別陳列・特集などの解説に係る講座となっています。申込不要、聴講無料です。お気軽にご参加下さい。左記、本年度前期の十五回分の予定です。

	月日	内容(予定)	担当学芸員
第1回	4月25日	前田利常の文化政策と古九谷	村瀬 博春
第2回	5月9日	前田利常と小堀遠州	高嶋 清栄
第3回	5月16日	前田綱紀の文化政策と久隅守景	村瀬 博春
第4回	5月23日	前田綱紀と百工比照	高嶋 清栄
第5回	6月20日	加賀象嵌つてなあに？	中澤菜見子
第6回	6月27日	歴代加賀藩主の姿あれこれ	村上 尚子
第7回	7月4日	金沢が生んだ美術批評家 坂井犀水(一)	西田 孝司
第8回	7月11日	日本画滅亡論からみた日本画	前多 武志
第9回	7月18日	駅前銅像・モニュメント	北澤 寛
第10回	8月29日	魯山人と石川県	寺川 和子
第11回	9月5日	俵屋宗達と琳派の再検証	村瀬 博春
第12回	9月19日	鴨居悠・玲・羊子	二木伸一郎
第13回	9月26日	心理学でみる鴨居玲	前多 武志
第14回	10月3日	涅槃図のたのしみ	中澤菜見子
第15回	10月10日	鴨居玲と自画像	二木伸一郎

## 五月の映像ギャラリー

「加賀百万石美と歴史風土」(十日)は、加賀文化を醸成した金沢の風土を、地形と気候という観点から考察します。また、コンピュータグラフィクスで再現された当時の金沢の町並みをご覧ください。「心ありき陶芸家、板谷波山」(十七日)では、日本の近代陶磁史を代表する作家のひとつである板谷波山の生涯が紹介されます。波山は、明治二十九年に、石川県立工業高等学校の彫刻家主任となり、三十一年に陶磁科に移って三十六年まで教鞭をとりました。

そして「加賀前田家 百万石の名宝展」にちなみ、「映画 能面」(十日)と「映画 日本刀」(十七日)を上映します。前田家が愛した能楽と、武家の象徴たる日本刀。どうぞ展覧会とご一緒にお楽しみください。

## 「国際博物館の日」について

五月十八日(月)「国際博物館の日」は、コレクション展示室が観覧無料になります。

「国際博物館の日」とは、博物館の役割を広く人々に知っていただくため、一九七七年にICOM(イコム：世界の博物館関係者で組織される国際博物館会議)において、毎年五月十八日を国際博物館の日とされました。

## 早朝開館のお知らせ

ゴールデンウィーク中の五月二日(土)から六日(水・休)までの五日間、開館時間を一時間早め午前八時半からとします。早朝開館の時間中(九時半まで)にご来館頂いた方は、団体料金に割引いたします。

# 新幹線で行ける注目の展覧会

今回は北陸新幹線開業にちなみ、北陸新幹線で行くことができるゴールデンウィークの展覧会情報を掲載します。尚、最短移動時間は、金沢駅を起点に始発の新幹線を利用した場合を記載しています。

■富山県立近代美術館【最短移動時間：四十六分】

富山県富山市西中野町一―十六―十二  
電話 〇七六―四二二―七一一

北陸新幹線開業記念「世界・日本の20世紀美術」―旅する100年―  
会期：三月十四日(土)～五月一〇日(日)

■松本市美術館【最短移動時間：三時間】

長野県松本市中央四―二二―二十二  
電話 〇二六三―三九一―七四〇〇

「戦後日本住宅伝説―挑発する家・内省する家―」  
会期：四月十八日(土)～六月七日(日)

■軽井沢現代美術館【最短移動時間：二時間十九分】

長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉二〇五―一一―  
電話 〇二六七―三二一―五一四一

「色彩溢れるアートポスター展 パリ・ムルロー工房より」  
会期：四月二十五日(土)～十一月二十三日(月・祝)

シャガールやピカソ、マティスなど二十世紀美術の巨匠たちが展覧会のために制作した告知ポスターを展示

■東京国立博物館【最短移動時間：二時間五十六分】

東京都台東区上野公園十三―一九  
電話 〇三―三八二―一一一一(代表)

特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」  
会期：四月二十八日(火)～六月七日(日)

現存する全ての鳥獣戯画をご覧頂けます。

■サントリー美術館【最短移動時間：三時間十一分】

東京都港区赤坂九―七―四 東京ミッドタウン ガレリアA三階  
電話 〇三―三四七九―八六〇〇

「生誕三百年 同い年の天才絵師 若冲と蕪村」  
会期：三月十八日(水)～五月一〇日(日)  
国宝 夜色楼台図 与謝蕪村 他をご覧頂けます。

## 五月の行事予定

■講演会

2日(土)

「前田育徳会の過去・現在・未来」  
講師／石田寛人氏(公財)前田育徳会理事長

■ラ・フォル・ジュルネ金沢協賛 コンサート&レクチャー

4日(月・祝)

「コンサート演奏：声楽アンサンブル、ヌオーヴォ・アスベツト」  
レクチャー「尊経閣文庫と財団の創設」  
講師／前田利祐氏 前田家第十八代当主、  
ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭実行委員会会長

■百万石の文化講座

30日(土)

午後1時30分～ 聴講無料 美術館ホール  
第1講「前田綱紀について」 講師／嶋崎丞 当館館長

■映像ギャラリー

10日(日)

午後1時30分～ 入場無料 美術館ホール  
「加賀百万石 美と歴史 風土」(33分)  
映画「能面」(35分)

■土曜講座

17日(日)

午後1時30分～ 入場無料 美術館ホール  
「心ありき 陶芸家、板谷波山」(46分)  
映画「日本刀」(30分)

■土曜講座

9日(土)

午後1時30分～ 入場無料 美術館ホール  
「前田利常と小堀遠州」 学芸第二課長 高嶋清栄

■土曜講座

16日(土)

午後1時30分～ 入場無料 美術館ホール  
「前田綱紀の文化政策と久隅守景」 担当課長 村瀬博春

■土曜講座

23日(土)

午後1時30分～ 入場無料 美術館ホール  
「前田綱紀と百工比照」 学芸第二課長 高嶋清栄



九谷五彩の赤・黄・緑・紫・紺青で彩色したカーネーションの絵皿です。油絵具のような釉薬の透明感と、白地の多い可憐な花の絵柄によって、色の暗さや重さを感じさせない巧みな構成です。流麗な筆致と多彩な色使いからは、洋画家である作者の高い技術と感性をみることができます。

中村研一は福岡県に生まれ、洋画家岡田三郎助に師事しました。東京美術学校を卒業した大正九年に第二回帝展で初入選、その後も入選と受賞を重ねて、戦後は日展の理事を務め、昭和二十五年には日本芸術院会員となります。石川県洋画界の重鎮高光一也の師でもあります。昭和二十八年から三十一年の間に、初代徳田八十吉のもとで九谷の絵付を行い、優れた作品を残しています。

カーネーションには本来、青の色素はありませんが、ここでは鮮やかな黄色の花の補色である、紫と青の花が強い印象を残しています。中村が九谷五彩の紺青と紫、存在しない色の花に心を留めていたことが窺えます。

制作後約四十年を経た現在、遺伝子組換えで青や紫の花が作出され、当時は幻だったこの花束は、現実存在するものとなりました。これを中村はどう思うのでしょうか。そんな想像もふくらむ作品です。

※第5展示室で展示中

## 次回の展覧会

会期：  
6月11日(木)～7月20日(月・祝)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室		ご利用案内	
近代の美術		琳派 I		コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※( )内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション展示室 無料の日(5月は4日)	
第3展示室	第4展示室	第5展示室	第6展示室	今月の開館時間 午前9:30～午後6:00	
新収蔵品展 夏の優品選 I [油彩]	新収蔵品展 夏の優品選 I [彫刻]	石川の工芸 I 加賀象嵌てなあに?	新収蔵品展 夏の優品選 I [日本画]	カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休	
				5月は無休で開館しています	

広告

# 片山津温泉

22種のお風呂で  
おくつろぎ下さい

<http://www.kagakankoh-hotel.co.jp/>

日本海の海の幸や加賀の美食なら



〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉ウ 41  
加賀観光ホテル予約センター 受付時間 9時～20時

**Tel. 0761-74-1101**

石川県立美術館だより  
第379号(毎月発行)  
2015年5月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel: 076(231)7580  
Fax: 076(224)9550  
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>